

経済学用語集

古典派の第一公準

講師：加藤 真也

古典派の第一公準

ケインズも認める

Marginal Product

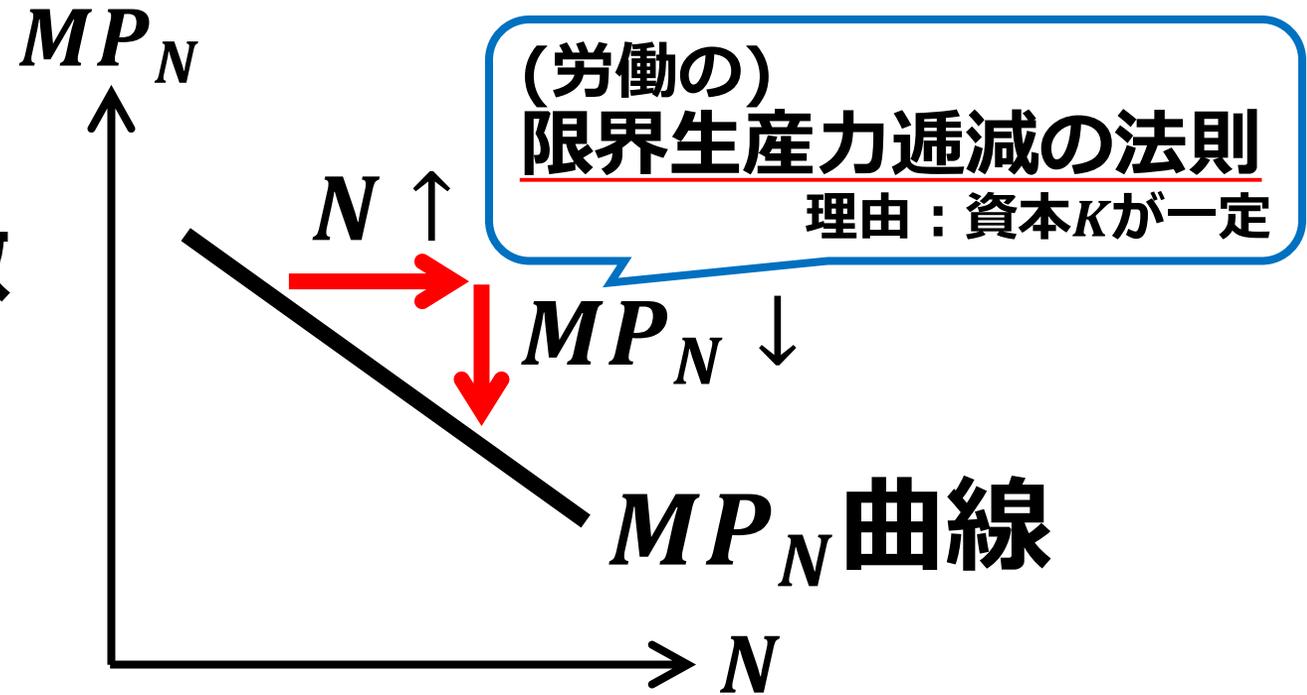
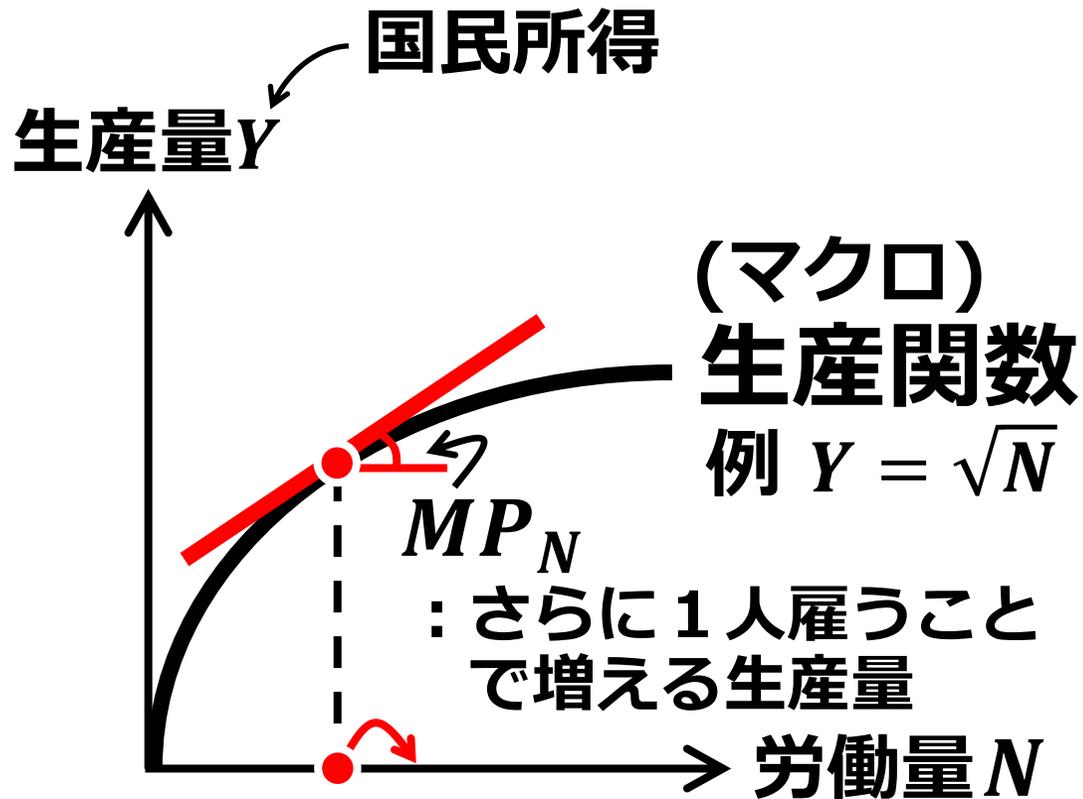
： 労働の限界生産力 MP_N と

実質賃金(率) $\frac{w}{p}$ が等しくなる

ように、企業は労働需要量 N_D
を決める

⇒ 企業の利潤最大化

労働の限界生産力 MP_N とは？



(計算例)

$$Y = \sqrt{N} = N^{\frac{1}{2}} \rightarrow MP_N = \frac{dY}{dN} = \frac{1}{2} N^{-\frac{1}{2}} = \frac{1}{2\sqrt{N}}$$

$$MP_N = \frac{w}{P} \text{ とは？}$$

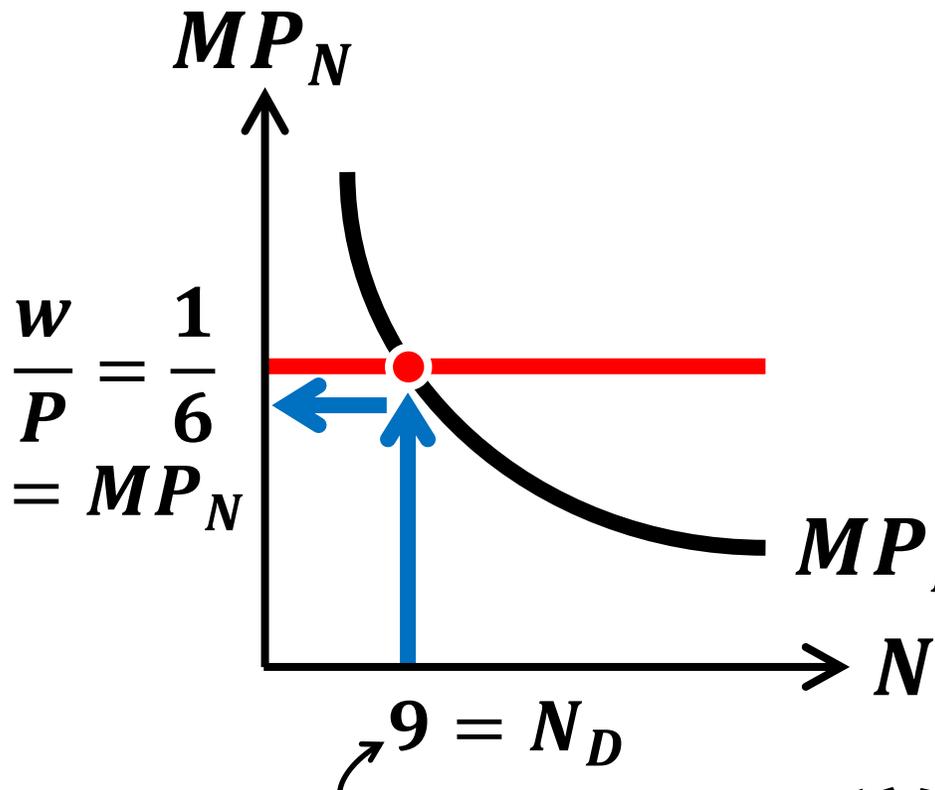
生産関数 $Y = \sqrt{N}$

総費用 $TC = w \cdot N = 1 \cdot N$

物価 $P = 6$  名目賃金(率), 貨幣賃金(率)

利潤 $\pi = \text{総収入} TR - \text{総費用} TC$
 $= P \cdot Y - w \cdot N$
 $= P\sqrt{N} - wN$

$$\frac{d\pi}{dN} = P \cdot \frac{1}{2\sqrt{N}} - w = 0$$



$$MP_N \cdot \frac{1}{2\sqrt{N}} = \frac{w}{P}$$

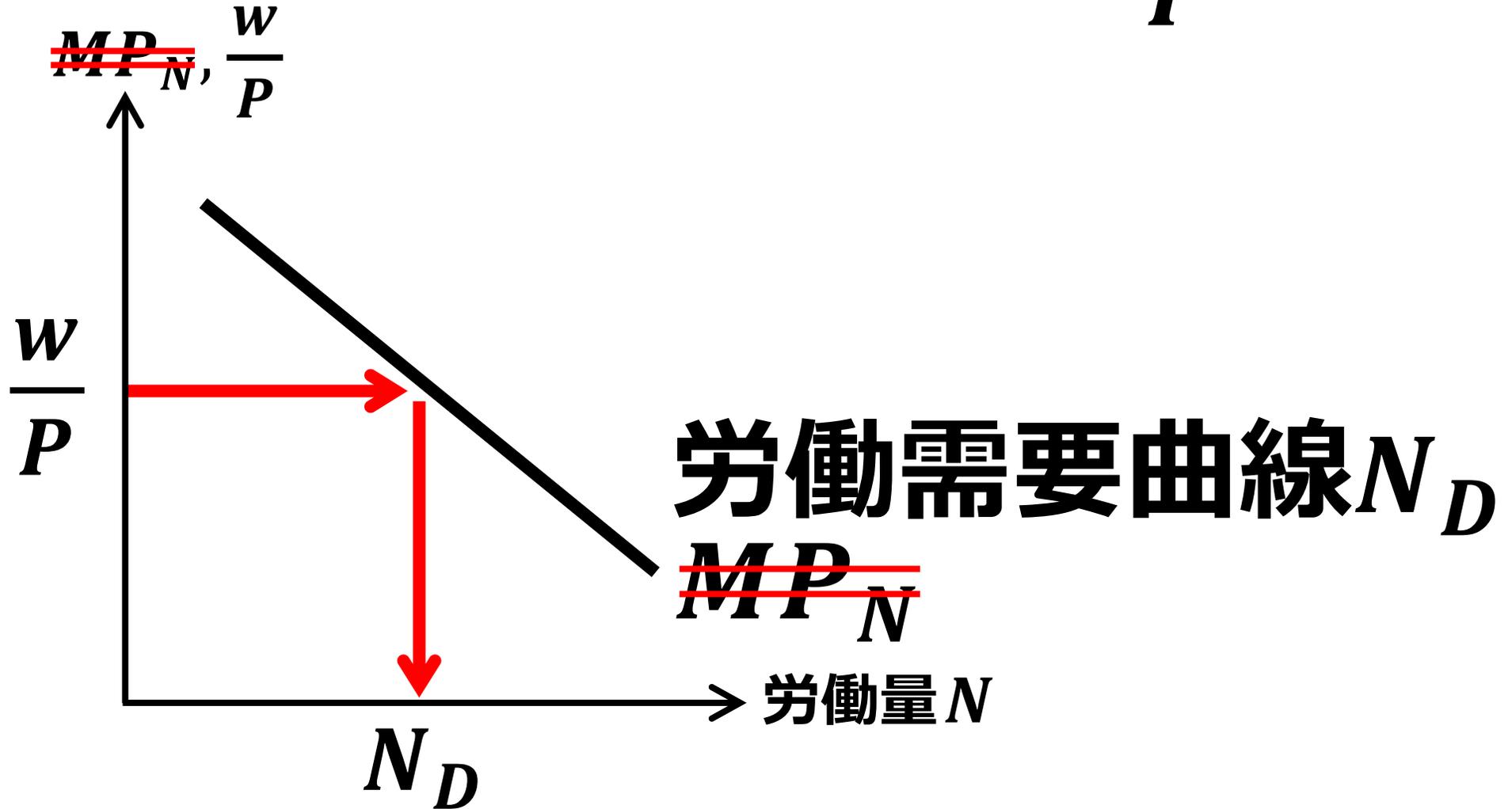
$$MP_N = \frac{1}{2\sqrt{N}} \quad \frac{1}{2\sqrt{N}} = \frac{1}{6}$$

$$\sqrt{N} = 3$$

労働需要量 $N_D = 9$

利潤最大化する
労働需要量

古典派の第一公準 ($MP_N = \frac{w}{P}$) より、



ポイント

古典派もケインズ派も
古典派の第一公準から
労働需要曲線が導出できる

直観 $MP_N = \frac{w}{P}$

式変形すると、

$$P \cdot MP_N = w$$

$P \cdot MP_N$: さらに1人雇うことで増える収入

さらに1人雇うことで増えるY

w : さらに1人雇うことで増える費用

AS曲線の右シフト

(要因：技術革新)

